こんにちは、今日はお祈りですか？
それとも、傷を癒しに…って、あれ？

もしかして…あなたは…？

っ…！
ほ、本当に…本当に、君なんですか？
えっ、ええっ…！？

…そっか、久し振りに街に帰ってきてくれたんですね
もう…分かるに決まってるじゃないですか

大切な幼馴染みの顔を忘れるほど、薄情じゃありません

君がこの街を出たのが１０年くらい前ですよね
１０年も経って、背は伸びたし、筋肉も付いたし…見違えるほど変わっていて、びっくりしましたけど

…え？それに比べて、私は全然変わってない？

……

……その、実は…私、本当に１６歳のままなんです

ええと…どこからお話しましょうか
あれは君が冒険に出た少し後の事で…私が神官として、この教会で人々を癒し始めてすぐの事なんですが…

とある魔物の討伐にたくさんの人が参加して、怪我をして…
私はその人たちの怪我を治したり、癒しの力を与えたりしていました

けれど、その中に大きな呪いの爆弾みたいなものがあって…
私は上手く呪いを解く事が出来ず、反動として自分の身体が呪われてしまいました

それで呪いを受けた１６歳の時から身体が成長しなくなってしまって…
ふふ、もうお酒も飲める歳なのに、外見だけはずっと子供みたいなんです

君みたいに、久々に会った人にはすごく驚かれます
羨ましいとも言われますけど…そんなに、いい事ばかりじゃないんですよね…

…え？呪いを解く方法？

う～ん…実はあるんですけど、今まで自分で挑戦しても、全然解けなくって

私１人じゃ難しいのかもしれなくて…

ええと…書物によると呪いは負のエネルギーだから、それを浄化するために正のエネルギーを放出していくと解ける
つまり、他者を癒せば癒すほど、呪いは解けるはずなんですが

こうして神官として、毎日たくさんの冒険者や戦士を癒したり、祈りを捧げたりしていても、全然効果はなくって

そ、そんな！一緒に、呪いを解くだなんて…！
で、でも！本当にそれで解けるかなんて、分からないんですよ？

君は冒険者になったんでしょう？
他の町やダンジョンに向かうでしょうに、私が君の足を引っ張るのは…

…っ！…本当に、いいんですか？
私の呪いを解くのに、付き合ってもらっても…

…分かりました、君の熱意には負けちゃいます
じゃあ、色々とお手伝いしてもらうので、よろしくお願いしますね

そうだ、今日はご実家に泊まるんですか？

…ぁ、そうなんですね
そういえば、お姉さま結婚されてましたし、急に泊まるというわけにも…

でしたら、しばらくは私の家に泊まってください
客間はありますし、その方が呪いを解くのにも都合がいいですよ

では、私の仕事が終わったら、家にご案内しますね

ふぅ…まさか、彼にまた会えるなんて思わなかった
街を出ていって、もう戻ってこないのかと思ってたけど…

…誰にでも優しいところ、本当に変わらないなあ
そういうところを、私は好きになったんだけど…
でも、きっと君は私の事、友達としか思ってないですよね

…呪いを解く、本当の方法…
ずっと、君の力を借りて解きたいと思ってた
善意に漬け込むみたいで悪いけど…

…ごめんなさい

私…やっぱり君の事、諦められないから…